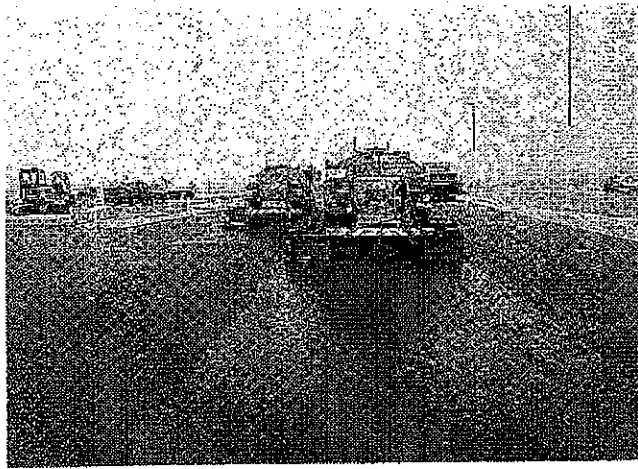


用乳剤
ト乳
コート
コルト
クファ
クアス
タア

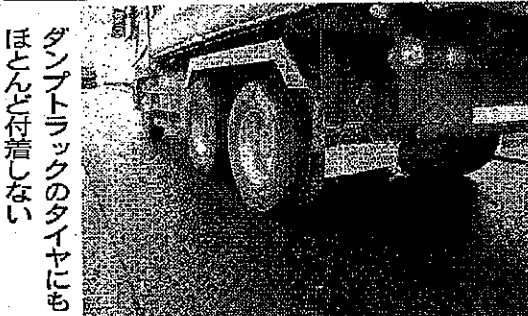
タイヤ付着率0.1%に抑制

NIPPO年2000キ ロトル販売目指す



クリアソルの散布状況

NIPPOは、アスファルト混合物の表基層間
アルト混合物の表基層間
アルト乳剤で、タイヤ付
着を抑制させるのに散布す
着抑制タイプの新製品



タンポトラックのタイヤにも
ほとんど付着しない

「クリアソル」を開発し、
出荷を始めた。タイヤ付
着率が0.1%と業界基
準を大幅に上回る性能を
持ち、タンポトラックな
どに乳剤が付着すること
を抑制する。新製品向けに改良し、確
実な施工性を確保
した。年間200
0キログラムを目標に販
売し、「乳剤全体
の市場占有率(シ
ェア)を現在の8
%から10%に高め
たい」(舗装事業
本部)としている。
タンクコート用
乳剤は、路面温度
が高くなる夏季な
どに施工すると、
タンポトラックや

「クリアソル」を開発し、
出荷を始めた。タイヤ付
着率が0.1%と業界基
準を大幅に上回る性能を
持ち、タンポトラックな
どに乳剤が付着すること
を抑制する。新製品向けに改良し、確
実な施工性を確保
した。年間200
0キログラムを目標に販
売し、「乳剤全体
の市場占有率(シ
ェア)を現在の8
%から10%に高め
たい」(舗装事業
本部)としている。
タンクコート用
乳剤は、路面温度
が高くなる夏季な
どに施工すると、
タンポトラックや

アスファルトフィニッシ
ャーのタイヤに付着し
て、はき取られてしまっ
たのが課題とされていた。
乳剤メーカーが参加する
日本アスファルト乳剤協
会では、07年11月にタイ
ヤ付着抑制型乳剤の規格
(案)を制定。会員各社
がそれに対応した乳剤製
品の開発に取り組んでき
た。

業界内では後発となる
NIPPOは、特殊な改
質剤を投入することで乳
剤を硬質化させ、タイヤ
への付着を抑える方法を
確立。規格(案)で10%
以下とされるタイヤ付着
率を0.1%とすることに
成功した。

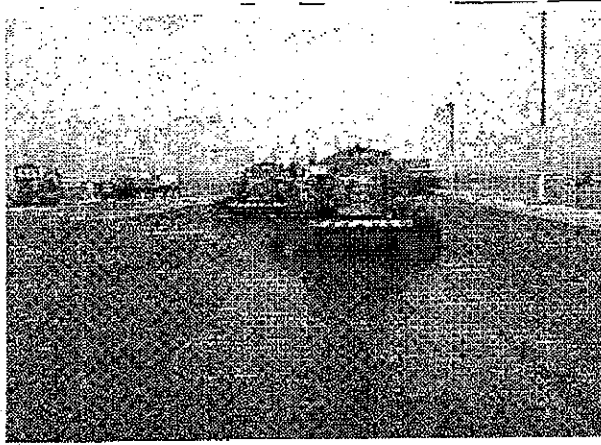
構内での試験施工や、
を経て、08年冬季に実施
した埼玉県内の道路を皮
切りに、09年夏季には青
森、鹿児島、福島の各県
内の表道にも適用。計6
万平方メートル(散布量は約24
キログラム)の現場で良好な付
着抑制効果を確認した。

クリアソルは、9月1
日から出荷を開始。現在
は埼玉の乳剤工場へ製造
しているが、年内には5
工場へ製造する体制を整
え、全国の需要に対応す
る。また、引き続き製品
の改良にも取り組む、
「散布装置付き運搬車
(アストリビューター)
等という。
販売価格は、関東地区
で1立方メートル175円
(9月時点)。散布代は
別。同業他社の製品と同
等という。

日刊建設工業新聞
平成21年9月11日掲載

タイヤ付着抑制乳剤を開発

周辺道路 年間2千t販売
汚さず施工



自走式散布装置を使い、基層の表面に1平方メートル当たり0.4t程度乳剤を撒く

NIPPOは、施工時のタイヤ付着がほとんど生じないタックコート用アスファルト乳剤「クリアソル」を開発した。今月から販売を始めた。

一般的な乳剤は、夏季など路面温度が高い時は、作業するダンプロックなどのタイヤに付着し、周辺の道路を汚す課題があった。新製品は、特殊な改質材を入れて付着を防ぐ。4現場に導入し、効果を確認できたことから、販売に踏み切った。自社施工も含め、年間2000tの販売を目指す。

タックコート用アスファルト乳剤は、舗装の基層とした。

クリアソルは、タイヤ付着率が0.1%とほとんど付着が生じないため、接着力の低下や、周辺環境に悪影響を与えない。散布装置も改良を加え、施工の確実性を高めた。接着力は、通常のタックコート用アスファルト乳剤と同等以上を確保した。

2007年度から開発に着手し、08年度に構内試験施工で付着抑制効果を確認した。08年冬に埼玉、09年夏に青森、鹿児島、福島の各県内の実道（合計約6万平方メートル）に導入した。

販売価格は、関東地区で散布代を除き1t当たり175円（税別）。価格はアスファルトの価格に合わせて見直す。通常のタックコート用アスファルト乳剤に比べて2倍強の価格となるが、環境配慮技術として売り込む。年内に全国5工場で製造する体制を整える。

日本アスファルト乳剤協会の調査によると、正会員8社の08年度出荷量は約17万2000t。このうちNIPPOのシェアは約8%。09年度の出荷量全体を20万tと予想しており、新製品の投入などでシェアを10%に高めたい考えだ。

また、さらなる性能向上と価格低減を目指した研究を続けており、改良版の開発も計画している。

日刊建設通信新聞
平成21年9月11日掲載

タイヤ付着抑制型を投入

性能面でさらに改良 乳剤シエアアップ狙う NIPPO

NIPPOは、タイヤ付着抑制効果の高いタックコート用アスファルト乳剤を開発、埼玉や青森、鹿児島、福岡の各県内の表道で、合計約6万平方メートルの現場で施工し、良好な付着抑制効果を確認した。商品名は

「クリアソル」で、同社埼玉乳剤工場をはじめ全国の代表的な乳剤工場で製造。9月1日から社内外に向け販売を開始した。同社乳剤市場シェアは8%にとどまるが、性能面でさらに改良を加え、近く第2弾を市場投

入する予定で、乳剤市場シェアを10%台にまで高めたい考えだ。アスファルト乳剤には、浸透用アスファルト乳剤と混合用アスファルト乳剤、改質アスファルト乳剤の3種類があり、浸透用は08年度生産比率

で76%を占める。浸透用乳剤には、アスファルト舗装の路盤安定化などを目的として散布するプライムコート用アスファルト乳剤（JIS記号・PK-3）、アスファルト混合物の層間接着を目的に散布するタッ

クリアソル散布状況



クのタイヤなど、剥ぎ取られ、間下が懸念されるほか、周辺の舗装路面を汚してしまうことが課題となっていた。

このためアスファルト乳剤協会加盟8社のうち6社が、新しいタックコート用アスファルト乳剤を開発し、協会は07年11月に、一般名称を「タイヤ付着抑制型乳剤」とするとともに、協会規格を定め、発注者側も環境配慮型乳剤として設計に織り込むなどの動きを見せ、同社は空港や高速道路の大規模工事では他社製品を購入して対応していた。

1のタイヤなから、乳剤生産量がタイヤ付着抑制型に食われ低下することを懸念、07年度から同型乳剤開発に着手した。製品開発にあたっては特殊な改質剤を混入し、散布装置（インストリビュター）の一部改良を加えた。タイヤ付着率試験結果によると、一般的な製品のタイヤ付着率が55・0%に対し、クリアソルは0・1%と良好な付着抑制効果を確認。接着力も一

般製品、ゴム入りと同程度であることを確認している。08年冬季に埼玉県内表道の基層面と切削面で、08年度表道には青森、鹿児島、福岡各県内の表道で、合計約6万平方メートルの現場で良好な効果を確認した。

クリアソルの販売価格は、関東地区で1立方メートルあたり約17・5円（税抜き、散布代除く）。当面の年間販売目標は2000トン。同社は今後さらに性能面で磨きをかける考えで、研究開発面で優位性を保ち、市場シェアのアップを狙う。

クコート用アスファルト乳剤（同・PK-4）、改質アスファルト乳剤の1種のゴム入りアスファルト乳剤（日本アスファルト乳剤協会記号・PK-R・T）がある。

タックコート用アスファルト乳剤は、分解後に粘着性が大きくなくなるため、夏季などの路面温度が高いときにはアスファルト混合物を運搬するダンプトラックやアスファルト混合物を敷き均すアスファルトフィニッシャー

日刊建設産業新聞
平成21年9月11日掲載